

グリーンサークル 40号

クローズアップ
活動団体紹介

大石 武朗
よこやまの道班
鶴牧西みどりの会
井上 雅夫

多摩市みどりのかわら版
～クローズアップ～

多摩ニュータウンと私のグリーンライブ構想 大石 武朗 (からきだの道の会 会長)



イイギリ

多摩ニュータウンと私が出会ったのは、今から約55年前のことでした。1966年(昭和41年)4月1日付で当時の日本住宅公団に入社しました。新入社員全員で研修期間中に公団バスに乗り見学に来ました。“随分田舎だなあ”というのが実感でした。5月1日付で、最初の勤務先は南多摩開発局でした。多摩ニュータウン(以下多摩NT)が終の棲家になると思ってもよかったです。まだ多摩NTは存在してなく、基本計画図書があるだけでした。多摩NT予定地は、果てしなく続きそうな多摩丘陵の雑木林と谷戸の水田と畑の中に点在する農家のある風景でした。

開発局での最初の仕事は事業計画課の配属でした。集落部分の用地買収が不可能だったので、丘陵地部分だけで開発できないか、ということで、自然地形案で開発できないか、と検討しましたが、色々な理由でボツになりました。結局、最初は丘陵部分の造成で、量産型の集合住宅を建設し、団地を造る事でNT建設が始まりました。また、この時代は公園緑地をNTの計画面積の10%如何に限ると言う時代でした。しかし、昭和40年代末になると公害問題、環境問題がクローズアップされ、当時の美濃部都知事「多摩NTのみどりとオープンスペースを30%以上確保する事」との方針を示しました。これを機に既に建設が進んでいた諏訪・永山地区などを計画の大幅な見直しが実行されました。特に「落合・鶴牧地区」では、「一生ここで暮らしたくなるような街」「故郷だと誇りにできる街」を目指して大々的な計画の見直しがされました。

そこで住宅地全域を「地」として見立てて「みどり」の絵柄、すなわち4つの近隣公園を配置し、これらによって「富士見通り」や鶴牧山を中心とした高みを連ねた緑の連続による井桁の



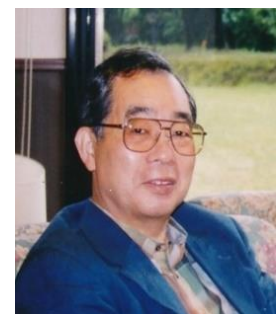
ような絵柄を構築して「基幹空間」と名付けられました。これが、未だかつて

なかった現在実現している「落合・鶴牧地区」の街なみが誕生しました。

この様に多摩NTは、多くの公園・緑地が出来て住民の方々には、利用するだけでなく、育成管理の方にも積極的に参加して頂こうと期待されました。折しも、当時の日本は緑化ブームとなり、当時の建設省公園緑地課で「都市緑化教室、緑の相談所、都市緑化植物園」の補助金制度が創設されました。この制度を活用して、公園緑地の管理養成所を創設したのが「グリーンライブセンター」でした。そして、グリーンライブセンターの設計に先駆けて、既に都市緑化教室、緑の相談所が開設している東京都の水元公園、神代植物公園、練馬区四季の香公園等の先行事例を見学しました。それらは小中学校のような机で、並べ方も同じでした。そこで、“グリーンライブセンターはこれではない” “もっと温かいイメージ” と思いました。南側にロマンティックガーデンを併設しました。グリーンライブセンターの設計は大高建築設計事務所にお問い合わせしました。講師と受講生のディスカッションは、大きなテーブルを囲んで和気あいあいのイメージでした。

多摩中央公園の建築面積の制約のある中で温室も備えることとしました。また、テーブル、椅子、本棚等はオークヴィレツジに発注して一生物の家具にしました。また、グリーンライブセンターの初代所長は、誠文堂新光社の元編集長の島村亘幸氏になって頂きました。

鶴牧西公園は、グリーンライブセンターと緊密な連携を考えて計画しました。グリーンライブセンターが花と緑の文化の発信拠点に対し、鶴牧西公園は、日本の伝統的農耕文化の継承を願って計画しました。雑木林、竹林の保全と活用、茶畑、果樹園、水田、桑畑、花の谷等々は、お爺さん、お爺さんから孫への伝承の場となるように願って計画しました。



大石 武朗さん

～活動団体紹介～

私の活動日誌

よこやまの道班 志賀 きよし

20. 10. 24(土) 晴

今朝の打合せは、連絡事項の報告、作業の分担などではじまる。

今日の予定は①ホダ木本伏せ ②ナラ枯れ被害のマーキング ③西階段の補修 ④刈払機 2 台の修理 ⑤もみじの広場草刈り、等で この日の参加者16名が分担する。

私は、ナラ枯れ被害のマーキングを分担。担当する人は2名で、一人は赤枯れ木に赤いテープ、木くずの散乱はあるが枯れていない木に、黄色テープを巻く。もう一人はペンと記録紙を持つ。今日一緒に行く横山さんが、テープを持ち、私はペンを持って歩く。

今日マークする場所は、諏訪ヶ岳北面を西から東に向けて調べる、歩いていく辺りは、笹がかなり伸びている。その中にペットボトルが何本か落ちている。落ちているのではなく、山の道を歩くヒトの誰かが放り投げている。

以前、人の踏み込むことで貴重な植物に被害があった。道と林の間に、ササの背を高くして垣根を作るようにした。人は自分の歩く所から目の届かない場所に、不用の物を置いていく。

虫のいる穴から木くずが沢山落ちている。その周辺は草を刈って風通しをよくしておけば木虫もこなかったのか…等々思いながらチェックして行く。

20. 11. 14(土) 晴

今日の予定は①諏訪ヶ岳東端からの遊歩道整備、②ナラ枯れ被害のマーキング。

私は前回に引き続いてマーキングに参加、テープは今日も横山さんが持ってくる。横山さんは山歩きの達人で目ざす木々に早々と着いてテープを巻く。



志賀さんと横山さん。ひとつずつチェックしていく。息もぴったり。

今日の場所は、前回の反対斜面諏訪ヶ岳に南面する地域。南側だけにササの背が高く歩くのにこずる。前回にも思ったが、何年も前に裸地のような、落葉も風にとばされ積もることのなかった所を、何年かかけてヤブ地にした。これが良かったか悪かったのか思いながら、ヤブこぎに手こずりながら歩いた。

虫くいの木は遠目にみても、幹の下方に黒い固りがあり、その根本に細かい木屑が積もっている。これがヤブの中からでは実に見にくい。一本一本確かめてゆく。前回13本、今日は17本、クヌギの被害も2本、加わった。

この作業は、以前、豊ヶ丘小でナラ枯れ病の木が見つかり調査をしてきたため、よこやまの道班でも去年6月22日に、ナラの木虫の被害点検をしてきた。

ある地方のまとめに、薪や炭が使われなくなり、ナラ類の大径化を被害の要因ととらえ、ナラ枯れ拡大の懸念、小枝、大枝の落下、里山の景観の劣化、等をあげている。

私たちも一つの穴に虫一匹ではないこと、数千数万の数いることを考え取組まないといけない、等々作業の分担をして感じてきた。



ボランティア仲間と一緒に、ナラ枯れ調査を行う

志賀 潔 (きよし) さん

グリーンボランティア講座初級7期(2008年)、中級5期(2009年)修了。84歳。グリーンボランティア歴12年。今年、関東・東海地方にナラ枯れの被害にあった雑木林が多く、よこやまの道班にある樹木の実態調査を行っている。

多摩グリーンボランティア森木会 よこやまの道班

開設：平成18年(2006年)4月 人員：34名

作業日：第2・第4土曜日 9:30～12:00頃

場所：多摩市諏訪6丁目エコプラザ多摩周辺

作業内容：草刈り、落葉掃き、林床整備、伐採・剪定、植樹、植物観察、落葉囲い・シガラ積みなどの作成、散策路の整備、シタケ栽培、小鳥の巣箱管理など

お問い合わせ：多摩市立グリーンライブセンターまで。

～活動団体紹介～

鶴牧西公園と鶴牧西みどりの会と 咲き乱れる花々と！

鶴牧西みどりの会 照井 力

鶴牧西公園の概要

鶴牧西公園は、多摩市鶴牧 2-18 の敷地(60,000m²)に平成 6 年 3 月に、みどり豊かな公園が開園しました。

南東(写真右上)に事務所と「老の土間」「若の土間」、西側には、バーベキューも可能な「みどりの広場」、事務所の北側斜面に「果樹の谷」更に西側に「水の広場」「お茶の谷」「花の谷」そして竹林、水田と続き、「天然記念物のシダレザクラ」、「農家風休憩所」があります。更に西側の雑木林が、「鶴牧西みどりの会」の活動エリアの雑木林となります。

鶴牧西公園に咲き乱れる花々

鶴牧西公園には、花木と草花、樹木が豊富に揃っています。鶴牧西みどりの会の活動している雑木林を中心に、近郊には、150 種を超える花々や果実が生息しています。その中で、いくつかの可憐な花を紹介します。

他に色とりどりの花々や、木の実等、盛り沢山です。

1. シロホトトギス(8月～)
白杜鵑草(ユリ科)



2. ヒメヒオウギズイセン(6月～)
姫槍蕪水仙(アヤメ科)



3. フデリンドウ(4月～)
筆竜胆(リンドウ科)



4. ヤマルソウ(4月～)
山躑躅草(リンドウ科)



5. ヒヨドリジョウゴ(7月～)
鶯上戸(ナス科)



6. オカトラノオ(6月～)
丘虎の尾(サクラソウ科)



農家風休憩所

シダレザクラ



鶴牧西みどりの会の活動状況

・2017 年 4 月 鶴牧西みどりの会 発足

グリーンライブセンターの指導を受けて、会員 5 名で「鶴牧西みどりの会」発足。初年度は、会則発行に向け検討を重ねて会則が完成。主な地域活動は、クマザサの下草刈りで、精一杯でした。

・2018 年 ミニアルバム作成

今年度は救急医薬品の整備と活動エリアの樹木や草花の多さに注目し、ミニアルバムを作成。思いもかけなかった可愛い花々を発見した。

・2019 年 樹木の標識作成

雑木林に生息する樹木の標識を約 50 枚作成。材料は 100 円均一から標識版を購入し、各自分担で彫刻。しかし、実際取り付けてみると、まばらすぎてあまり目立たなかった。今年度は念願の刈払機を 1 台導入した。

・2020 年 椎茸の栽培開始

新型コロナウイルスで活動が制限される中、椎茸の栽培を開始。これから 2～3 年後が楽しみ。うまくいくかな？ 会員数も現在 11 名で、全員グリーンボランティア講座卒業。

・2021 年～ これからの活動

地域住民に貢献できる活動を検討中である。

例として

* 雑木林の中を探索できる遊歩道の整備

* 雑木林の北側広場を子供達の遊べる広場に整備

等、夢は尽きない素敵な魅力あふれる環境です。

多摩中央公園の改修整備・運営事業に関わって感じたこと！

多摩市 環境部 公園緑地課 みどり担当主査 井上 雅夫

平成 31 年 4 月の人事異動により、公園緑地課に配属されました井上と申します。私は、土木技術職なので、事業課である道路交通課（旧土木課、旧道路課）、下水道課とこの二課には、二度に渡って在籍し、平成 22 年度は防災安全課の防犯担当として 1 年ほど在籍した経歴でございます。

今回の公園緑地課での勤務は初めてでございますが、グリーンライブセンターとはいささか過去に関わりがございました。平成 14 年度から平成 21 年度の 8 年間は、道路交通課で街路樹の維持管理の担当を任されており、その時に樹木を含めた緑や造園関係については、市民等の方々から多大なるご意見を多くいただきました。当時の市内の街路樹は、街路（道路）とペデ（遊歩道）を含めて約 2 万本（当時）の樹木があり、限られた予算の中で市内の街路樹をどう管理していくか、難しさを肌で感じておりました。その時に樹木の生育の特徴や緑化の管理について、智恵やご意見を伺いたく緑化相談員の先生を紹介して頂き、旧土木課の先輩職員もいたので、何度か足を運んだ経緯もございます。その時のことを思い出すとグリーンライブセンターとのつながりは十数年以来のことと存じます。

公園緑地課に配属されての私の主な命題は、パルテノン多摩の大改修や中央図書館の整備と相まって多摩中央公園の改修とその後の運営について、民間事業者の創意工夫で行う Park-PFI 制度を導入して整備していくことでございます。

多摩中央公園は、多摩市のみならず多摩ニュータウン地域のシンボルとして、中心的存在の総合公園であると考え

ております。当時の作られたコンセプトもニュータウンの造成で無くなった多摩丘陵の山里の緑をイメージした公園とっておりますが、平成 30 年度に策定しました多摩中央公園の改修基本方針でも「継承」「安全・安心」「多様性」と三つの柱が決まりました。その中でも次世代の公園を利用する方達へ今ある環境を「継承」することが一番重要であると考えており、これは、緑も含めた水景や資源、歴史や市民の思いであります。難しいことかもしれませんが、民間事業者からの提案もより良いものであることを願っております。来年は、多摩中央公園の改修整備する事業者の公募が、いよいよ始まります。また、グリーンライブセンター庭園の改修基本設計も始まる予定で、その時には多摩市グリーンボランティア連絡会、恵泉女学園大学の皆さんとも意見交換をする場を設定することになると思います。そこに私も参加すると思いますので、その時にはどうぞ宜しくお願い致します。



公園改修後のイメージ 図書館側から



公園改修後のイメージ 大池側から

表紙の絵

「イイギリ」絵・内城葉子

イイギリ：「イイ」は飯のこと。葉を飯を盛る器としてつけたからとか・・・赤い実はヒヨドリの好物です。

<プロフィール> 1949 年東京生まれ。1986 年国立科学博物館第 2 回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989 年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショー Gold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005 年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信
グリーンサークル 40 号
発行日：2020 年 12 月 15 日
編集・発行責任：
多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局
〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園
多摩市立グリーンライブセンター内
電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087
ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>